

日吉キャンパスにおける読書バリアフリーへの取り組み： 日吉メディアセンターと国立国会図書館の 視覚障害者等用データ提供館覚書締結

よしい ゆきこ
吉井由希子

(日吉メディアセンター課長)

1 はじめに

2021年に改正された障害者差別解消法では、それまで民間事業者（私立大学も含まれる）には努力義務とされてきた障害のある人への合理的配慮の提供が、義務化されることになった。この改正法が2024年4月1日から施行されることを受け、日吉キャンパスでは、2023年初めから読書バリアフリーの促進について検討がなされてきた。読書バリアフリーとは、視覚障害、発達障害、身体障害等により、文字情報の認識が困難な人や、書籍を持つことやページをめくることが難しい人が、音声読み上げなど自分に合った様々な形で、書籍の内容にアクセスできるようになることを指す。2019年6月28日に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）施行されたことで、読書バリアフリーへの取り組みの必要性が広く認識されるようになった¹⁾。

日吉キャンパスでは、視覚障害その他の理由で通常の活字の印刷物の読書に困難を抱えている（Print Disabilityのある）塾生および教職員を対象とした読書バリアフリーへの取り組みとして、書籍の電子化および提供について検討を開始した。時を同じくして、国立国会図書館が2023年3月に「国立国会図書館障害者用資料検索「みなサーチ」β版」の試験公開を開始した²⁾。この動きを受け、電子化した書籍のファイルを国立国会図書館に共有すべく、経済学部中野泰志教授、協生環境推進室（障害学生支援室）、日吉メディアセンターで、協同して準備を進めることになった。本稿では、日吉キャンパスにおける視覚障害者等用データの作成および2024年1月に正式版として公開された「国立国会図書館障害者用資料検索（愛称：みなサーチ）」（以下「みなサーチ」）（図1）^{3) 4)}へのデータ提供について報告する。

2 視覚障害者等用データの準備

(1) 対象資料

提供の対象とする資料は、日吉メディアセンターで除籍となった資料のうち、過去にシラバスに教科書として掲載されていた書籍を主とした。どのような書籍の電子化が求められているかといったニーズの調査を行ってから取り組むやり方もあったが、まずはコンテンツを増やすことを重視した。教科書は多くの学生のニーズがあると予想されたことや、除籍された書籍であれば裁断してスキャナーで読みとることが可能となり、電子化作業の効率が良いため、対象として最適と考えられた。

(2) 事前調査

著作権法第37条第3項に規定される権利制限に基づき、図書館では視覚障害者等用として書籍の電子化（読み上げに対応するように透明テキストを付けてのPDF化など）を行うことができる。ただし、同じ形式のものがすでに著作権者等より提供されている場合は行うことができない旨が、同項のただし書きとして規定されている。電子化を行うにあたっては、日本図書館協会の「図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン」⁵⁾を参考にし、同サイトに掲載される「著作権法第37条第3項ただし書該当資料確認リスト」に挙げられたWebサイトのほか、読み上げ機能付きの電子書籍を扱う出版社サイトを確認し、音声化できる形で電子化されたものがすでに提供されていないことを確認した。

(3) 電子化作業

電子化作業は、中野研究室および協生環境推進室が担当した。国立国会図書館に提出するデータを用意するために必要な作業は、書籍のスキャン、透明テキストデータ付PDFの作成、簡易書誌情報（提供する資料のリスト）の作成である。またPDFファ

イルの冒頭には、原本に関する情報、製作者、著作権第37条第3項に基づき製作したことを、指定の書式に従って記述したページを添えなければならない。これらの作業について、学内で裁断およびスキャン作業が可能な資料については、すべて中野研究室内で行い、それ以外については透明テキストデータ付PDFの作成までを外注し、資料リストは協生環境推進室で作成した。

3 「みなサーチ」へのデータ提供

(1) 覚書締結

国立国会図書館との窓口は日吉メディアセンターが担当した。「みなサーチ」へのデータ提供館になるためには、あらかじめ国立国会図書館との「視覚障害者等用データ収集に係る覚書」の締結が必要である⁶⁾。覚書の名義は大学の場合、図書館でなくてはならないため、日吉メディアセンターにて準備を進めた。2023年12月8日に覚書を締結し、国立国会図書館への視覚障害者等用データ提供館として、日吉メディアセンターが登録された。

(2) データの提供

「みなサーチ」に提供できるデータの種類の、音声DAISY・音声ファイル・マルチメディアDAISY・テキストDAISY・テキストデータ（未校正テキストデータを含む）・点字データである⁷⁾。このたび提供した透明テキスト付PDFデータは「テキストデータ」にあたり、OCRで読み込んだままで人手による確認を経ないデータということで「未校正テキストデータ」として提供した。

国立国会図書館とのデータの受け渡しにはクラウドストレージのBoxを採用し、電子化したデータがある程度の量になったところで、簡易書誌情報（提供する資料のリスト）とともに1つのBoxフォルダに格納し、これを国立国会図書館の担当者がダウンロードしていただくという流れにした。なお国立国会図書館が提示しているデータの送付方法は、DVD-R、USBメモリ等の媒体による郵送・国立国会図書館のサーバへのデータ送信・メールによる送付の3通りのうちいずれかとなっているが、国立国会図書館の担当者とも相談させていただき、最終的に双方の負担が少ないBoxによるデータの受け渡しという形で調整することができた。

提供したデータは、国立国会図書館の担当者に

よって「みなサーチ」に登録される。この段階で、透明テキストの不備等で、読み上げに難があるものが見つかった場合は差し戻され、修正する。2024年8月現在、「みなサーチ」には、250件以上のデータが「製作者：日吉メディアセンター」として登録されており⁸⁾、作業は継続中である。

4 おわりに

「みなサーチ」へのデータ提供は、予算と人手が確保できれば、作業をルーティン化して、継続していくことは可能である。人手に関しては、日吉メディアセンターにおいても、国立国会図書館とのやり取りや、電子化する資料の事前調査、関係部署との各種調整等を行うため、少なくとも1名以上の担当者を立てる必要があるようだ。「みなサーチ」は、視覚障害その他の理由で通常の活字の印刷物の読書が困難な方(Print Disabilityのある方)であれば、利用者登録のうえ利用ができる⁹⁾。「みなサーチ」にデータを提供し、コンテンツを充実させていくことは、読書バリアフリー環境を整えることへの貢献の一つと言える。

その一方で、Print Disabilityのある塾生や教職員にフォーカスしたサポートについては、さらに対策を検討していく必要があるだろう。そのためにはこれに関わるスタッフだけでなく、すべての教職員や学生が、読書バリアフリーに対する理解を深めていかなければならない。慶應義塾における読書バリアフリーへの取り組みについて、その必要性やメリットをさらに具体化していくことも求められるだろう。大学内において視覚障害者等は少数であり、実際のところ当事者の声を聞く機会がなければ検討が難しいのも事実で、それゆえに優先度が低くなりがちである。学内におけるニーズを把握し、対象者に分かりやすい形で読書バリアフリーに関するサポートを提供する体制を整えていくことが必要となっていくだろう。「みなサーチ」へのデータ提供の次に何ができるかは、これから考えていくべき課題といえる。

注・参考文献

- 1) “視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律について” 文部科学省。

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/1421470.htm

特集 つながる、広がる、コラボレーション

- 2) “国立国会図書館, 国立国会図書館障害者用資料検索「みなサーチ」β版で視覚障害者等を対象としたデジタル化資料の全文テキストデータ提供を開始” カレントアウェアネス-R, 2023, (NDL, 2023/3/28)
<https://current.ndl.go.jp/car/175454>.
- 3) 国立国会図書館. “みなサーチ正式版を公開しました” みなサーチ (お知らせ), 2024.
<https://mina.ndl.go.jp/news/20240105>.
- 4) “みなサーチ” 国立国会図書館.
<https://mina.ndl.go.jp/>.
- 5) 日本図書館協会. “図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン”
<https://www.jla.or.jp/library/gudeline/tabid/865/Default.aspx>.
- 6) 国立国会図書館. “視覚障害者等用データの収集の手続き(「データ提供館」になる) 視覚障害者等用データの収集

について” 視覚障害者等用データの収集について,

https://www.ndl.go.jp/jp/library/supportvisual/supportvisual-10_01.html#a4.

- 7) 国立国会図書館. “国立国会図書館が収集する視覚障害者等用データの種類” 国立国会図書館が収集する視覚障害者等用データの種類視覚障害者等用データの収集について.
https://www.ndl.go.jp/jp/library/supportvisual/supportvisual-10_01.html.
- 8) みなサーチ検索結果. 以下URLより日吉キャンパスで作成された電子書籍を一覧できる(製作者を慶應義塾として検索)
<https://mina.ndl.go.jp/search/detail?cs=bib-mina&q-producer=慶應義塾>.
- 9) 国立国会図書館. “視覚障害者等用データ送信サービスの利用者登録について(初めて登録する)”
https://www.ndl.go.jp/jp/support/pd_touroku.html.



図1 「みなサーチ」トップページ